



マンガを通じての平和教育

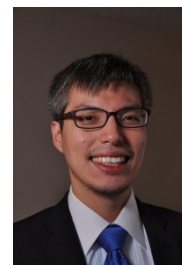
平和教育の課題と実践例を学び、情報交換をしてネットワークを作りましょう。

日 時: 2014年11月8日(土) 19時30分から20時50分 (開場19時15分)

場 所: 広島市西区民文化センター美術工芸室 (定員30名)

広島市西区横川新町6番1号 http://www.cf.city.hiroshima.jp/nishi-cs/frame_main.htm

講 師: カール・イアン・チェン・チュア (Karl Ian Cheng Chua) さん
アテネオ・デ・マニラ大学 (フィリピン) 准教授



内容紹介: 「マンガにおける戦争」

子どもたちは「未来の大人」であることを考えると、その子どもたちに影響を与える子ども向けのメディアは重要な役割を果たしていると言えます。子どもへの教育は、すなわち大人のもつ能力、価値観を子どもたちに継承していくためのもので、その形態の一つは学校を通しての公式なものであり、また子どもたちに人気のあるメディアを通しての非公式なものもあります。日本においては、教科書が戦争（特に第二次世界大戦での戦争犯罪）についての若者の物の見方に影響を与えているということが深刻な問題として取り上げられています。

この講演では、教科書ではなく、第二次世界大戦についての描写がある日本のマンガが若者に与えている影響についてお話させていただきます。モリス・スズキによると、日本の「ノンフィクション」歴史マンガは、学校の歴史教科書の役割を補い、また教科書の代わりとなることさえあるということです。このマンガというメディアでは、心の傷になるような過去を受け入れられやすいように説明することができるので読者の興味を引くことができます。マンガは、読者の戦争についての物の考え方に、もしかしたら教科書よりもより大きな影響を与えるかもしれないわけですから、これらの「ノンフィクション」のマンガを研究するということには価値があるのではない でしょうか。

講師プロフィール:

アテネオ・デ・マニラ大学 アジア史准教授・日本研究プログラム局長

シンガポール国立大学でフィリピンで戦時中に新聞に掲載されたマンガの研究で修士を取得。日本の一橋大学で社会科学の博士号を取得。博士論文では1930年～1950年に日本の子ども向け雑誌に掲載されたマンガにおける「他国」の描写方法についての研究をまとめた。



申込み様式 QR コード

資料代: 500円 (当日会場にて) 学生無料

申込み: 申し込みフォームにて <https://ssl.form-mailer.jp/fms/6e79e445210113>

主 催: 平和教育地球キャンペーン中四国支部 <http://gcpej.jimdo.com/cipe/hiroshima/>

問合せ: 角崎祐美 (同支部代表)・赤松 敦子 (同支部事務局)

e-mail: peacemessagestakamori@yahoo.co.jp